

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



## 「高校生のイメージ」



朝の通勤時間帯に通学途中の高校生を観察していると一昔前とは比べ物にならないくらい温和で柔らかな生徒たちが増えていると感じます。短いスカート、茶髪にルーズソックスはすっかり姿を消し、紺地のハイソックスに黒髪の女生徒と、スポーツシューズにリュック姿で髪型のおしゃれとは無縁のような男子生徒ばかりとなり、全くひねくれた素振りもありません。

そういえば学生カバンに、革靴姿の生徒も見掛けません。堂々と路上で喫煙する生徒ともすれ違うことが無くなりました。その昔、ツッパリ生徒の代名詞であった極太ズボンにパンチパーマの生徒もいなくなりました。このような変化はどうして起きたのでしょうか？

「時代の変化」を答とするのは曖昧過ぎます。「ゆとり教育の成果!!!」でもないでしょう。その近似解は「経済の収縮」であると思います。高校生の欲求が向かう選択肢が経済悪化で大きく狭まったことや、小遣いの大半が通信費に充てられる影響が大きいでしょう。昔、1箱200円で買えたタバコも今や500円となり、カッコ良さよりバカバカしさが上回る「コスト」として意識された結果、高校生の喫煙が激減したと見るべきです。

先日、近隣の高校に足を運ぶことができました。数十年前の学校観で少し緊張して校門をくぐったのですが、体育の授業準備中の生徒達に「こんにちは!!!」と挨拶されました。玄関でも、廊下のいたるところでも、外部の人間とわかる私に対して挨拶してくれるのです。

その光景は自分が持っていた高校生のイメージがいかに時代遅れであるのかを痛感させられる出来事でした。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎